

なかとんべつ 町議会だより

Volume

196

平成29年1月25日発行



| | |
|--|----|
| 第4回定例会議決結果 | 3 |
| 第4回臨時会結果、いきいきふるさと常任委員会 所管事務調査報告 | 4 |
| 私たちの一般質問 | 5 |
| 議員だより・議会の動き・あとがき | 10 |

第4回 定例会



平成28年第4回定例会が、12月11日から12日まで2日間の会期で開かれました。

冒頭の行政報告で、小林町長から次の2点について報告がありました。

1. 新規就農者の営農開始について、平成26年9月より本町で酪農研修を行っていた新規就農希望者の藤本亨さんが、上駒地区の離農農場で営農を開始することとなり、11月より乳牛の導入を開始した。

本町の新規就農者誘致特別措置条例に基づく新規参入者は3例目となった。

2. 中華大学との観光連携に関する協定の締結について、台湾新竹市にある私立中華大学との観光連携に関する協定の調印のため、平成28年11月23日～25日に、町側から町長と産業グループ担当者、商工会から2名の計4名で台湾を訪問した。

本協定は、中頓別町商工会が本年度より実施している「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」を契機に、中華大学と観光事業の連携推進の協議が進んできたものである。

次年度以降、中華大学の学生をインターンシップ形式で本町に受入れ、異文化交流を図るとともに、インバウンド観光を進めるための基盤づくりや観光体験プログラムの整備等を進めていくことにしている。

一般質問では、通告順に5議員が質問を行いました。

町長から提案された人事案件1件、条例案など3件、一般会計ほか6会計の補正予算を原案どおり可決し、閉会しました。

第4回定例会で 決まりました



議決結果

○同意第2号 固定資産評価審査委員会委員の選任同意

任期満了に伴う委員に、字中頼別の是川哲男さんを選任することに同意。

任期 平成28年12月23日

平成31年12月22日

○議案第76号 農業委員会の委員の定数に関する条例

平成29年に改選期を迎える農業委員会委員について、法律の改正により、これまでの選挙による委員5名、町長の選任による委員3名の合計8名から、すべてを議会の同意を得て町長が任命する委員7名にするもの。

○議案第77号 定住自立圏形成協定（一部変更）

名寄市・士別市を複眼型中心市として11町村が締結している協定のうち、医療・福祉分野の人材育成を名寄市立総合病院や名寄市立大学を中心に連携して取り組むことで、圏域全体で医療・福祉人材の確保につなげていくもの。

○議案第78号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画（変更）

上頼別・岩手・小頼別・秋田辺地に係る道路、林道整備計画の変更。

○議案第79号 一般会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ4千969万円を追加し、歳入歳出の総額は36億1千380万円に。歳出では、地方バス路線維持対策補助金225万円（総務費）、高齢者世帯等に対する除雪サービス事業補助金194万円、低所得者に対する臨時福祉給付金675万円（民生費）、酪農振興支援事業補助金8件分1千478万円、新規就農者経営安定自立補助金1千200万円（農林水産業費）、商工会運営補助金190万円、商工業振興支援事業補助金3件分325万円、観光備品購入費151万円（商工費）、すみれ団地給湯設備設置工事219万円（土木費）、自動車学校特別会計等繰出金451万円などを追加し、南宗谷消防組合負担金548万円を減額するもの。（いきいきふるさと常任委員会付託審査）

○議案第80号 自動車学校事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ23万円を追加し、歳入歳出の総額は3千661万円に。歳出では、臨時職員賃金23万円を追加するもの。

○議案第81号 国民健康保険事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ55万円を追加し、歳入歳出の総額は2億9千603万円に。歳出では、社会保障・税番号制度導入に必要な社会保障関連システム改修委託料55万円を追加するもの。

○議案第82号 国民健康保険病院事業会計補正予算

既定の収益的収支の歳入歳出予算額にそれぞれ100万円を追加し、歳入歳出の総額は5億3千716万円に。歳出では、給与費で職員の給料・手当等を1千281万円減額して、出張医師、看護師賃金を1千590万円追加。経費で旅費交通費等204万円を追加するもの。資本的収支では、収入で医療機械購入事業に係る病院事業債60万円を減額するもの。

○議案第83号 下水道事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ288万円を追加し、歳入歳出の総額は9千462万円に。歳出では、経営戦略計画策定業務委託料288万円を追加するもの。

○議案第84号 介護保険事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ665万円を追加し、歳入歳出の総額は2億3千142万円に。歳出では、社会保障・税番号制度導入に伴うシステム改修委託料等185万円、特定入所者介護サービス費480万円を追加するもの。

○発議第4号 JR北海道に公共交通機関としての使命を果たすことを求め、共に道北地域の創生を目指す決議

鉄道事業の大幅見直し方針を打ち出したJR北海道に対し、道北地域における主要交通機関の使命を果たし、地域活性化に取り進むことを求め、本町議会としても、JR北海道、国や道及び市、関係団体や地域住民とともに一致団結して、地域活性化のための行動をする決議。

◎**発議第5号 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書**

町村では議員への立候補者が減少し、無投票当選が増加するなど、住民の関心の低下が大きな問題となっている。国民の幅広い政治参加や地方議会における人材確保の観点から、地方議会議員の厚生年金制度加入のための法整備を早急に実現するように国に求めるもの。

◎**発議第6号 大雨災害に関する意見書**

本年8月、台風7、11、9号が相次いで上陸し、さらに台風10号の影響による集中豪雨に伴う河川の氾濫によって全道各地に甚大な被害をもたらし、経済活動に多大な影響が生じていることに対し、国に対して早急な災害対策と今後の防災対策に向けた財政措置を求めるもの。

◎**発議第7号 JR北海道への経営支援を求める意見書**

JR北海道は、現在の営業路線のおよそ半分となる10路線13線区を単独では維持が困難であると発表した。地域住民の日常生活に重要な移動手段である鉄道を北海道において公共交通機関としての役割を發揮できるように、JR北海道の経営が自立できるように財政支援等を図るよう国に求めるもの。

第4回臨時会結果

(11月21日)

11月21日招集された第4回臨時会で、町長から提案された次の1議案が可決されました。

◎**議案第75号 職員給与条例**

(一部改正)

人事院勧告に基づく関係条例の改正及び病院職員に係る宿日直手当等を改正するもの。

いきいきふるさと常任委員会

(11月21日)

いきいきふるさと常任委員会（東海林繁幸委員長）では、閉会中の所管事務調査を実施し、その結果を第4回定例会に報告しました。

調査結果

1 平成27年度総合計画実施状況について

計画に登載された62事業について、庁内内部評価、総合開発委員会による外部評価の説明を受けた。

2 平成27年度総合戦略実施状況について

3 地方創生推進交付金に伴う地域再生計画について

平成28年度からの3年間に於けるライドシェアを中心としたシェアリングコミュニティ事業、農業の6次産業化、観光振興、貝化石活用など地域産業創出による雇用促進強化事業について説明を受けた。

4 地方創生拠点整備交付金の申請について

ピンネシリ地区におけるコテージ改修4棟、新築2棟等のハード事業と観光施設運営組織の再編について説明を受けた。

5 ピンネシリ温泉の運営について

上半期の運営状況について、宿泊者、入館者、会食者が前年同期を上回っており、収支バランスが取れる状況である。

6 中華大学との協定調印について

台湾の中華大学と観光振興に関する協定を締結し、本町の観光振興と将来的な経済活動に結びつけるため、商工会、観光協会と協力してインターシップ形式により観光学科の学生を受け入れるもの。

7 町立自動車学校の運営について

教習生、指導員の確保に苦慮し

ていることから非常に厳しい運営状況であり、条例改正による授業料の割引、給与面や身分の安定性、退職金制度の検討などを通じて存続に努力する。

審査意見

7 町立自動車学校の運営について

町が考えている改善事項は議会として支持できるものであり、課題としている3点について、早急に取り組むべきである。

① 町立自動車学校の開設の位置づけを改めて明確にする。

② 入校生確保に向けた施策を明確に打ち出す。

③ 職員確保対策を検討する。



ここが聞きたい、知りたい 私たちの一般質問

細谷久雄 議員



質問

●冬期間の除雪に関する課題と対策

これから冬本番を迎えるが、町道の除雪に関して町民の安全・安心な生活ができるよう今年も綿密な除雪対策が必要である。

冬期間の町内道路状況について、町長はどのように認識しておられるか。また、高齢者等が安心して住み続けられる町を実現するために、高齢者世帯等への雪対策支援をどのように考えているか。

答 弁 ○小林町長

豪雪地帯にある中頓別町では、冬期間においても可能な限り通行に支障のないよう道路除雪を行うことが必要であり、当町においても、その確保に向けて努力している。今冬も

例年どおりの体制を整えて、除雪業務を行っていく。

高齢者世帯等の雪対策支援としては、社会福祉協議会と連携を図り、新たな支援制度を設けており、町内に子等の扶養親族がいる高齢者世帯等においても所得により費用の一部が助成されるようになってきている。さらに、きめ細かく相談に対応しながら、除雪の困難を少なくできるように努めていきたい。

質問

●学校教育の現状と課題について

本町が直面している著しい人口減少と少子高齢化の更なる進行をくい止めるためには、学校教育・社会教育など、教育全般にわたる魅力ある取組みが必要と考える。

町の未来を担うこどもたちに対して、今後どのような学校教育を進めていくのか。

答 弁 ○田邊教育長

教育委員会は、小中学校への教育振興事業をはじめ、委員会職員等が地域の期待に応えるよう知恵を絞り、子どもから高齢者の方々が満足感や充実感を味わう各種取組を行っている。今後、新しい取組や斬新な発想等、改善充実に努める所存です。

本年度から小学校3・4年生で複式学級となり、来年度はこのままの児童数で推移すると、単学年は1年生と6年生、他の学年は複式で2学級の編成となり、教員数が減少する。

複式学級であっても教育活動は変わらないが、学年で授業を行うために、町費負担の複式学級支援教員を確保する所存です。

今後の本町の児童生徒数の推移をみると、小学校と中学校を単独で維持することが困難な状況が予想される。本年度から制度化された義務教育学校（小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校）を導入して、教員の有効活用や一定数の子どもたちの集団を確保することを模索している。

宮崎泰宗 議員



質問

●町民アンケートについて

9月末から実施された町民アンケート調査は、自身のことについて回答を求められる設

問が非常に多く、無記名でありながら個人を特定できてしまうような内容は、人口1,700人台の町には馴染まないのではないか。

回収方法も訪問する町職員への手渡しでは回答を偽ってしまうという声もあるが、回収率や回答率はどうか。アンケートボックスなどを町内各所に設置する等の配慮が必要ではないか。

これまでにない斬新な施策の提案はいただけたか。

答 弁 ○小林町長

今回のアンケートについては、暮らしの現状を正確に捉え、さらに今取り組んでいる事業等に係る意見をいただくという考え方で作成した。

より多くの町民の意見を集約するということから、町職員による回収とし、回収率は84・4%、白紙を除いて83・5%の有効回答率であった。

内容については、現在集計作業中であるが、町政への提言や政策提案等様々な意見が寄せられており、今後の計画策定に活かしていく。

なお、職員の回収にあたり、専用の封筒を用意し、封入によって回収し、未開封のまま、まとめて委託業者へ渡している。そのため、職員がアンケートの内容を直接見る事はしていない。

集計完了後も梱包保管を厳重にして取り扱うこととしている。アンケート回収には様々な方法が考えられると思うが、回収率や保管等のセキュリティを考えると、今回の方法での取り扱いとした。

今回の声を尊重し、今後のアンケート調査に活かしていきたい。

答 弁 ○長尾総務課参事

保健、医療、人口減少、地域交通などへの不安、観光振興、アンケートは活かされているかなどの意見等が出されている。

質 問

●土地、住宅の取扱について

本町の民間アパート制度は、低所得者が入居できず、事業者の自宅や二世帯住宅、社宅のようにも利用できるなら、持ち家制度との補助額の差も大きく、公共性に欠けているのではないか。物件の寄附を受けたことで寄附の申出は増えていると思うが、役場裏の土地と現在の定住促進住宅に続いて取得したのは、土地1件と聞く。物件の必要性より、人を見て判断しているのではないか。

町職員の民間アパート入居者が増える一方で、水洗化された町職員住宅に

も空室が出始めたと聞く。本末転倒ではないか。

答 弁 ○小林町長

住宅の取扱について、今後は、民間アパートに低所得者が入居する場合の家賃補助創設や持ち家補助の増額なども考えていきたい。

町では、土地等の寄附の申出があった場合、「中頓別町寄附採納事務取扱要綱」に基づき、「寄附採納審査会」を開催して、行政運営上必要となる物件であるかを慎重に判断し採納すべきかどうかの決定を行うこととしており、寄附の申出を断る場合もある。

答 弁 ○遠藤総務課長

寄附の採納に関して、確かに、数件の申出については断り、病院に隣接する土地を新たに取得したが、行政運営上必要と判断したためである。

答 弁 ○山内産業建設課参事

民間アパートの町職員入居率は約3割で、水洗化された職員住宅等が空いているのは事実だが、老朽化しているので、修繕し活用する。

質 問

●出生祝い金の見直しについて

前回伺った出生祝い制度の見直しは検討されているのか。見直すのか否か

について伺う。

結婚支援金制度のような現金支給による自由度が求められているなら、そのように統一すべきであり、どちらも町民の税金による祝福制度であることを考慮するなら、商品券で増額し町内消費に貢献していただくことも必要ではないか。

出生祝い、結婚支援などの有無に係なく、水道料金の値下げなど、全町民への還元を手厚くすることなどは考えているか。

答 弁 ○小林町長

前回の質問に回答した時期より遅れてはいるが、子ども・子育て支援制度については、出生祝い金を含めて全体的な見直しを検討している。出生祝い金については、増額を検討している。

祝い金の増額や新設、低所得層に対する学校給食費の支援や給付型奨学金の創設などについて、財源の見直しを含めて、祝い金の贈呈方法についても検討していきたい。

水道料金や介護保険の町民負担は、これ以上増えないようにしたい。

質 問

●共助事業について

ライドシェアとファミリーサポート

の利用状況と今後について伺う。

町としてはデマンドバスなどの導入や旅客運送を行う町内民間事業者の継続に力を注ぐべきではないか。また、貝化石の調査も資源のシエアであるが、委託先などは決まったか。

答 弁 ○小林町長

ライドシェアの利用は、実証実験開始から92日間で延べ75人という状況である。

9月議会の補正予算で可決いただいた、地方創生推進交付金での「全社会資源参加シェアコミュニティ構築事業」の平成28年度交付金が採択され、さらに、平成30年度までの地域再生計画が採択される見込みである。そうしたことから、次年度の交付金の採択が有力とされており、今年度同様、交付金による継続した事業実施を想定している。交通の民間事業者に対する取り組みについても、継続して考えていきたい。

ファミリーサポートでは、発熱等の病児預かりについても進めたい。

答 弁 ○長尾総務課参事

貝化石については、別件の提案などもあり、現在は保留としている。

答 弁 ○吉田保健福祉課長

ファミリーサポートの実績について、スタートした10月は実績はしたが、会

員同士の交流会を数回開催した。11月は延べ5名、12月は現時点で延べ6名。会員数は、依頼会員、提供会員ともに11名の登録という状況である。

質 問

●ふるさと納税の返礼品について

本町ふるさと納税の返礼品が設定され、地元郵便局との協力体制でスタートを切れたのは喜ばしいことであるが、日本郵政の「ふるさとぶらす」は本格的な運用が始まったばかりで、登録自治体は、道内では中頓別町だけ、全国で見ても本町を含め8自治体の参加という状況である。アクセス数の多い大手通販サイトの利用なども考えているのか。

返礼品に関する負担は、どの程度か。品目を増やすなど今後の展開について伺う。

また、返礼品の蜂蜜は純中頓別産として取り扱われているが、消費量が増えても対応できるのか。

答 弁 ○小林町長

今後の展開については、現状をしばらく見ていく中で、他のサイトも利用するかなどの方向性を考えていきたいと思っている。品目については、今後増やしていくための取り組みを積極的

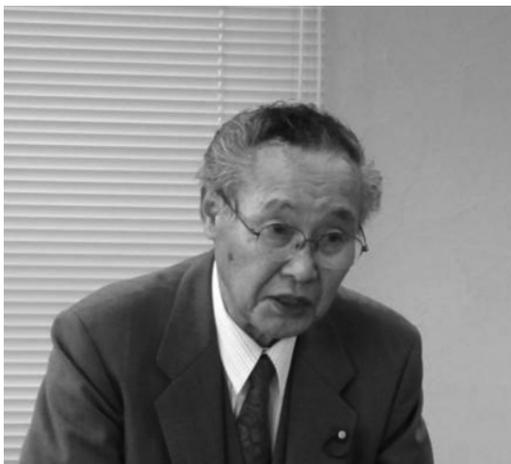
に行うこととしている。

答 弁 ○長尾総務課参事

経費については、サイト負担金20%、品代20%、送料8%の設定だが、納税額による若干の変動を加えると、実質の納税額は残りの約50%という内訳となる。

蜂蜜については、町内の採取量で賄えており、余力もある。

東海林 繁 幸 議員



質 問

●町の行政課題の認識について

町の行政課題は人々の捉え方によって認識の違いはあるが、一般的には人口減少、それに付随する少子高齢化、

働く場、町に存在する資源活用、住民生活の安全安心確保の課題等たくさんあるが、町長就任2年目後半となり、今何を喫緊の課題と考えるか。その課題の対応策を伺う。

答 弁 ○小林町長

今後は、若い世代が生きがいや働きがい求め、定住できる環境を整備していくことが重要な課題と考えている。

これまでも、農業、商工業を振興するための支援制度の創設や子ども・子育て支援や教育の充実、地域交通のための実証実験、住宅整備などを図ってきたが、これからは農協や商工会など経済団体とも一体となって地域経済の活性化と雇用創出に邁進していかねればならないと考えている。

農業においては、大規模農場や育成牧場の実現や基盤整備事業の実施、牛乳などを活用した6次産業化（アイス、ソフトクリーム）、商工業では、企業誘致と新たな観光振興策への取り組み、また、町の8割を占める森林を活用した振興策の検討などを重点的に推進していきたい。

石灰石の事業化は来年度実施が予定されている。

質 問

●観光振興計画について

今年度において観光振興計画が策定中であるが、計画ができてから町の政策が動くことも止むを得ないことではあるが、計画策定中であればこそ、理事者の町の観光振興への想いが語られなければならないし、その想いが実現できるように計画化されるべきことと考える。

本町の観光資源で何をどう活かすか考えを伺う。

答 弁 ○小林町長

本町の観光の振興を進めるにあたっては、中頓別固有の自然とそこで暮らしている私たちの暮らしや産業などさまざまな営みを基本に据え、魅力ある体験プログラムを提供することを中心に、宿泊施設や食の魅力を充実させていくことが重要と考えている。

コテージ2棟の増設や日本の最北端である宗谷の入口という立地を活かし、北オホーツク、サロベツ、利尻・礼文など、近隣町村の水産物等の魅力をも取り込んでいくことも戦略のひとつである。国内外を問わずターゲットを絞り、マーケティングをしっかりとやって、その層が求めるプログラムを開発していくことから始めたい。

また、町をあげた観光推進の体制づくりも重要であり、関係機関との協議を加速してその実現を図っていきたい。

観光振興計画の策定については、来年1月頃には素案の内容について検討委員会のほか地域内で議論をいただき、年度内に最終的な計画書として取りまとめしていく予定である。

星川 三喜男 議員



質 問

●交付税減額となった本年度の決算見通しは？

現町政になり、福祉政策、職員採用などで経常経費が膨らんでいる。今年度決算は、1億8千万円の黒字予想だ

が甘くないか。特に病院会計について2億1千600万円の赤字で済むのか伺う。

また、11月24日から社会人枠と称して一般行政職の募集が行われているが、商工、林業、農業、福祉の4分野に制限しており、商工分野の採用者の名前がすでに聞こえてきている。そのとおりなら、著しく不正、不当なコネ採用であり、募集を取りやめるべきである。

答 弁 ○小林町長

職員採用は、即戦力がほしいため4分野に限定した。一定の能力、実績のある方をヘッドハンティングしたいため、商工会と話をしたのは事実だが、特定の者を想定しての募集ではない。コネ採用はあってはならないと思う。職員全体の年齢バランスを考慮し、今年度の退職者3名に見合った数を採用したい。

答 弁 ○小林国保病院事務長

国保病院は院長が替わり、診療方針も変化している。入院・外来収益が若干減少しているが、薬剤費等材料費の支出も減少している。赤字額を大きくしないよう努力したい。

質 問

●社会福祉法人南宗谷福祉会からの経営問題に係る改善と要望について

10月4日付で南宗谷福祉会から、経営悪化が著しい長寿園に対し、天北厚生園から3千750万円を繰り入れる経営改善策が示されたが、それでも不足の場合、町への支援も要望されている。

改善内容を見る限り、両施設長や管理職の給与の見直し等について身を切る努力がない。法人の財務改善について、町が指導力を発揮すべきではないか。

答 弁 ○小林町長

社会福祉法人に対し、赤字補填として補助することは基本的に望ましくないと考えており、その旨を理事長はじめ法人の役員に伝えている。

特別養護老人ホーム及び養護老人ホームの経営改善に向けては、宗谷総合振興局の協力も得ながら、町として指導力を発揮し、個々の経営改善、削減にも踏み込みたい。

質 問

●公営住宅について

公営住宅法では、民間住宅の借り上げ、買い上げで良質な住宅は供給でき

るはずだが、なぜ、宮下定住促進団地を戸建専用から用途変更をしてまで売り出したのか。

民間アパートに身内を入居させることで補助金が出ることに町民は首をかしげている。また、入居した町職員3名のうち2名は、住宅手当を決定する総務課の職員である。税金で手当てを払ってまでなぜ民間アパートに入居させるのか。職員住宅に入れるべきである。

答 弁 ○小林町長

民間アパートの建設により、これまでであれば公営住宅に入居していた一定の所得がある層が入居することになり、住宅に困窮する低所得者が公営住宅に入居できる機会も一定程度増えたものと考えている。

公営住宅等の長寿命化計画では、平成30年度からあかね団地の建替を進める計画になっている。入居者の見込みを踏まえるとともに、低所得者が民間アパートに入居する場合の家賃助成制度の創設も合わせて検討していきたい。

民間アパートの建設用地については、宅地として売るつもりはなかったが、昨年、複数の相談があり、町有地の候補地として選定させた。特定の者に便宜を図ったわけではない。

今回の補助金については、条例に基づいた執行が行われていると認識しているが、改めて検証したい。

西浦岩雄 議員



質 問

●住宅を考慮した起業家への支援について

本町の基幹産業である農林業のみならず、商工業も廃業が相次ぎ、これからも高齢化と体力の衰えで廃業が加速するのではないかと危惧している。また、廃業しても住み慣れた住宅で住み続けるために、新規に起業しようとする環境の足かせになっている。これから起業しようとする人たちに多くのチ

ヤンスを与えるためにも住宅を考慮した環境を整えることが重要と思うが町としてどのように考えるか。

さらに、廃業の計画などを調査して、新たに起業する人たちに対して具体的に提示し、計画が立てやすくなったほうが起業しやすいと思うがいかがか。

答 弁 ○小林町長

今年3月に制定した商工業振興支援条例は、ご質問のような課題にも対応できるよう譲渡協力金などで支援を行い、店舗等の譲渡を円滑に進められるよう支援する制度となっている。

店舗を閉じられたまま居住されている方や後継者がいない事業者の方でも、その意思を最優先に尊重する必要がある。その上で、新たな事業者への譲渡を希望される場合には、その希望がかなえられるよう商工会との連携を図り、新たな起業家、事業継承者へつないでいけるよう支援を行っていきたい。

また、具体的な廃業計画となると、立ち退きに等しいことにもなりかねないデリケートな問題なのでなかなか踏み込めないのが現状である。酪農であれば農協が、商工関係であれば商工会が中心になって事業者と相談することをお願いしたい。

議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な場です。

議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

次の定例会は、3月に招集されます。日程は、議会だより臨時号などでお知らせします。

多くの町民のみなさまの傍聴をお待ち申しあげております。

議会の動き

10月

29日 平成28年度文化スポーツ賞授賞式

11月

3日 枝幸町合併10周年記念式典・自治功労者等表彰式（枝幸町）

8日 武部新衆議院議員との懇談会（東京都）

9日 第60回町村議会議長全国大会・第41回豪雪地帯町村議会議長全国大会（東京都）

12日 自民党移動政調会（稚内市）

13日 自民党政経セミナー（稚内市）

21日 第4回臨時会

いきいきふるさと常任委員会所管事務調査

30日 議会運営委員会

12月

10日 天北厚生園クリスマスパーティー

11日 第4回定例会

12日 第4回定例会

いきいきふるさと常任委員会（付託審査）

20日 南宗谷消防組合議会

29年1月

4日 新年交礼会

5日 消防出初式

8日 平成29年成人式

10日 議会広報編集特別委員会

16日 議会広報編集特別委員会

議員だより ～私の思い～

このコーナーは、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて、思いを綴るものです。

『平成29年 私の抱負』

議員になって早2年が経とうとしています。4半期ごとの定例会や臨時会を都度経験してもまだ不慣れです。

この町に生まれ、この町に育ち、この町で暮らしているものとして「ふるさと中頓別」の現状を目の当たりにする場を与えていただいたこと、町民の皆様に感謝するばかりです。

さて、日本が直面している人口減少、少子高齢化という課題が最も顕著に現れている人口1,700人余りの我が町にとって、今何をなすべきか？何ができるのだろうか？どこかにアイデアが落ちていないだろうか？と常々考えております。

医療・介護・福祉・公共施設やライフラインの老朽化等、早急に対応しなければならないことがたくさんあります。行政が掲げる理想と、現実とのギャップをどのように埋めていくのか。

たとえば、昨年8月から実証実験がスタートしたライドシェアですが、私も15名のボランティアドライバーと共に、自動車学校での安全運転講習を受講し、町内危険個所のマップ（地図）を頭に入れながら、安全運転を心がけて参画させていただいております。

よい仕組みではあるが使い勝手が悪い、役場の開庁時間を過ぎると電話での依頼ができないなど、問題点は多々あります。しかしながら、利用される方にとっては公共交通機関が乏しく、移動手段の限られた地域課題を克服できる手段として、特に高齢の方からの「助かるね」という意見もいただいております。人と人との世代を超えた交流、車内での何気ない会話から、この町に足りないものが見えてきます。

今年もボランティアドライバーを続けながら、安心安全で健やかに楽しく住み続けられる町を目指して、微力ながら行政の監視や提案をしたいと思います。

（綴人 長谷川克弘）

編集後記

新年明けましておめでとうございます。平成29年がスタートし、この「なかとんべつ町議会だより」が発行される頃には、小中学校では冬休みも終わり、普段どおりの生活を取り戻しつつあるのではないのでしょうか。

今シーズンの冬は、10月末の初雪が融けきらず根雪になった感があります。厳しく長い冬が約一か月も早く訪れ、慌ただしく更衣や、雪かき準備をされたのではないのでしょうか？

私も除雪しようと除雪機のエンジン始動と思いきやバッテリー上がりや整備不良が続出で、結局、人力で雪かきすることになってしまいました。「備えあれば憂いなし」の言葉が脳裏をよぎり、議員という立場の人間としても「備え」の大切さを再認識しました。

今年一年が町民の皆様にとって良き年になりますようお祈り申し上げます。春の芽吹きを楽しみに、厳しい冬を元気に乗り切りましょう。

議会広報編集特別委員会（長）